

## 自己評価集計結果

回答者数(A) :	55
リーダー層(B) :	13
一般職員(C) :	42

福祉サービス種別： ○○○

施設名： ▼▼▼

(注) \* 職員数が少ない場合は、リーダー層、一般職員との評価の違いを統計的に見ることの有効性は低いことに留意が必要です。

\* 無回答人数は、担当業務でない等により、把握できない場合があるため、無回答（知らない・分からぬ）とした人数です。

全職員（経営・運営幹部を含む。）														
評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	番号	全体		リーダー層		一般職員					
					できているとした人數(D)	無回答人數(E)	できているとした割合(%) (D/(A-E))	できているとした人數(F)	無回答人數(G)	できているとした割合(%) (F/(B-G))	できているとした人數(H)	無回答人數(I)	できているとした割合(%) (H/(C-I))	
4地域との交流と連携		(1) 地域との適切な関係を確保している。	① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。	1	■ 地域との関わり方について基本的な考え方を文書で定めている。	53人	2人	100%	13人	0人	100%	40人	2人	100%
				2	■ 入所者の助けになる地域の福祉に関する情報や地域イベント情報を収集し、掲示板の利用等で入所者に提供している。	51人	4人	100%	13人	0人	100%	38人	4人	100%
				3	■ 入所者が地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが援助を行う体制が整っている。	53人	2人	100%	13人	0人	100%	40人	2人	100%
				4	■ 地域の人々に向けた、施設や入所者への理解を得るために日常的なコミュニケーションを心掛けている。	51人	4人	100%	13人	0人	100%	38人	4人	100%
				5	■ 町内会、子ども会、老人会など地域の諸団体と連絡をとり、施設の行事に地域住民を招待している。	48人	7人	100%	13人	0人	100%	35人	7人	100%
			② 事業所が有する機能を地域に還元している。	6	■ 地域における福祉の主体として、責任を果たすための事業所の方針・役割を文書で定めている。	50人	4人	98%	13人	0人	100%	37人	4人	97%
				7	■ 地域における福祉の主体としての活動を職員に周知し、具体的な方法を定期的に話し合うなどして理解を図っている。	55人	0人	100%	13人	0人	100%	42人	0人	100%
				8	■ 介護等について、専門的な技術講習会や研修会、地域住民の生活に役立つ講演会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	51人	2人	96%	13人	0人	100%	38人	2人	95%
				9	■ 住民が自由に参加できる地域ニーズに即した多様な支援活動を行っている（介護相談・介護者の集い等）。	44人	6人	90%	13人	0人	100%	31人	6人	86%
				10	■ 地域へ向けて、理念や基本方針、事業所で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	50人	2人	94%	12人	0人	92%	38人	2人	95%
				11	■ 地域住民の行事等のため、施設を開放している。	33人	18人	89%	10人	0人	77%	23人	18人	96%
			③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	12	□ ボランティア受け入れに関する基本姿勢を文書で定めている。	14人	21人	41%	2人	1人	17%	12人	20人	55%
				13	■ ボランティア受け入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	32人	18人	86%	11人	0人	85%	21人	18人	88%
				14	■ ボランティアに対して必要な研修を行っている。	36人	18人	97%	12人	0人	92%	24人	18人	100%